

壊された くらし

新自由主義の現場から

コロナ禍で経済状況が悪化するなか、東京都台東区のハローワーク上野前で、利用者である女性も困っている様子で、政治に頼むべきではないと、意見を述べた。(藤原敏彦、小林里子)

ハローワーク前で

2月25日午前のハローワーク。断続的に利用者が増え、利用者が待つ時間が長くなります。

「ダブルワークをした」と思い、職を探しに来たというのは47歳のシングルマザーです。以前、旅行会社に勤めていましたが、コロナ禍で業績が悪化し失業。現在は保育補助の仕事をして収入が手取りで月11万、12万円ほど。子どもが大学に行くとお金がかかるので「収入が足りない」と悩んでいます。コロナ禍で収入が足りないという女性が増えています。

「私の政治は、この女性に『ダブルワークをしながら、収入を増やす』という目標を掲げています。」と語っています。

「コロナの影響で解雇された女性(84)は、2月

条件違った職場

「会社のやり方が合わず、仕事をめめたばかりだ」という台東区の女性(45)は上場勤務を辞めていると語りました。以前の職場は、インターネットの求人サイトで見つけたものの、示された条

中に失業保険が切れると語りました。1年間ハローワークに通い、いくつか職に就きました。ただ、職場が合わず継続できなかつたといっています。

「外に出なければお金を使わずに済む。それでなんとかやってきた。困りに対しては、税金を下げしてほしい」と願っています。

減税 私たちに

コロナで失業 ■ 蓄え崩し生活



東京都台東区にある「ハローワーク上野」(写真左)を、求職のために訪れた女性(写真右)＝2月25日

件は失業で悩んでいたといっています。現在は蓄えを取り崩しながら生活しています。

「毎日ハローワークに来て、仕事を探している。面接はたくさんあるが、実際に面接をして採用、不採用を決めてほしい。働きたくても働けない状況が広がっています。」と訴えています。

「政府は国民の間違った貯蓄を病めるための年前に以下を思いやらない。大企業底をついた貯蓄を病めるための年前に以下を思いやらない。大企業底をついた貯蓄を病めるための年前に以下を思いやらない。」

「私は厚生年金で入っています。2年間貯蓄が崩壊し、社会福祉協議会に自ら電話して、コロナの給付金や緊急小口資金の申請をしましたが、手続きがいろいろな書類をそろえ、行政機関に出向かなければならないので大変だったといっています。『私はスマホで情報を得て支援を受けられたけど、もっと高齢の人は難しい』と話し、支援制度の周知方法の改善と手続きの簡素化を求めています。」

台東区と新宿区で飲食店を営む男性(80)は、雇用調整助成金の申請に訪れました。男性は、時短営業を行っていたが、アルバイトの雇用は続けられているといっています。

「5月末では助成金を受け取れる。ただ、コロナ後はどうなるかわかりません。助成金の申請ももう少し合理的でできないものか」と話しています。

「ワシの仕事を退職した男性(85)は、体調が回復してきたため、これから仕事を探し始めるといっています。」